

## つれづれなるままに 第2号



令和元年6月20日（木）発行

校長 深谷 浩一

## 中央高校の将来構想はこれだ！

～VICSに取り組みます！～

前回、「これからこの中央高校をどんな学校にしたいのか」という私の校長としての希望を書きました。今回は、それらの希望を実現するために「これから学校としてどんなことに取り組んでいくのか」について、まとめてみます。

## ① 「『人の役に立ちたい』と思う生徒が多い学校」にするために

生徒が「人の役に立ちたい」と思うようになるには、人のために行った行為や活動によって、人から「感謝される」という経験を持つことが大きいと考えます。現在、本校には、JRC同好会が、小美玉市主催のボランティアとして参加していますが、参加した生徒の多くが、「人に喜んでもらえることに感動した」「人のために何かをすることはとてもいいことだ」と思っています。平成27年9月の鬼怒川氾濫によって常総市及び周辺地域が甚大な被害を受けた折、本校では急遽野球部を中心とした救済活動を編成して清掃等一般生徒合わせて50名が募集に応じ、丸1日清掃等救済活動を行いました。この経験は、参加した生徒たちの心の奥底に刻まれたことだろとうと思ひます。（「情けは人の為ならず」参照。）

生徒の「ボランティア精神の涵養」(Volunteerism)を図ることは大切なこととすし、学校はその機会を積極的に生徒に提供する必要があります。

## ② 「人を差別する生徒がいない学校」にするために

一部の情報に惑わされて、持つ必要のない差別意識を持たないようにするには、自分の目で見、自分の頭で考える習慣をつけなければいけません。

本校には、中国語と韓国語の授業があつて、それぞれを母国語とする講師が授業を行っています。彼らと話をしよよく感じるのは、メディアが報じる韓国や中国国内で発生した、日本に係る事件は往々にして政治的な色彩が強く、一般の韓国人や中国人の日本に対する考え方と乖離している点が大いではないかということです。

それに気づくことができるのも、韓国人の李先生や中国人の胡先生と実際に意見を交わすことができるからです。生徒たちにも韓国語や中国語の授業をとおして、差別や偏見を生まないような国際理解教育(Internationalism)を進め、国際社会で活躍できる人財の育成や海外の学校との積極的な交流を図っていきたくと思ひます。

## ③ 「十年先の生き方を考えている生徒が多い学校」にするために

今後、インターンシップを核としたキャリア教育(Career Education)の充実を図ります。

生徒が適切な進路を選択するためには、「キャリア教育」は欠かせませんが、「キャリア教育」とは、単に「大学に行くか、専門学校に行くか」といったことを決めることではあません。自分の適性や性格に合った一生の仕事を探すことです。漠然と「小学校の先生になりたい」とか「幼稚園の先生になりたい」と思つて、いざ先生になつてみたら、「こんな仕事だとは思わなかつた」ということもあります。高校の先生に採用されても、毎年一人くらいは就職して1年以内に辞めてしまつていふ事実もあるのです。

そんな理由で、私は在学中にできるだけ多くの人に実際の職場を見てほしいと考へていります。特に卒業後の就職を希望している人は、もし、その職種選択に失敗したと感じたら、せつかく就職した職場を辞めなければならなくなることもあります。それこそ慎重に何度も何度も職場を見学するなどして100%納得の上で職場を決めてほしいと願つていります。

## ④ 「運動能力を活かせる仕事に就く生徒が多い学校」にするために

本校の「スポーツ科学コース」には、極めて運動能力の高い生徒が集まっています。先日1年5組(スポーツ科学コース)の体育の授業を見学した筑波大学の先生は、バレーボールの授業を見て、本校生徒の運動神経の良さに感動していました。このような生徒が将来、この運動能力の高さを活かした職業に就くことができれば、生き甲斐のある充実した人生を歩むことができるのではないかと思ひます。

スポーツ科学コースの生徒には、是非大学に進学し自分の競技能力を高め、将来はその競技の指導者になつたり、警察官や消防士のように高い運動能力を求められる仕事に就く生徒がたくさん出ることを期待しています。スポーツ指導者の養成こそスポーツ科学コース(Sports Science Course)の大きな使命と言へるでしょう。

今回は、中央高校の「目指す生徒像」を実現するために、学校としてどんなことに力を入れていくのかについてまとめてみました。今後、この「中央高校の将来構想」に添つて様々な事業を展開していくこととなります。（おわり）